

CEF2019 土方クラス 課題曲(ジャッジ:土方久明)

▼Pop/Rock

マドンナ「Madame X」 Track 01 「メデジン」

CD : <http://ur0.work/UGkS>

ハイレゾ : <https://www.e-onkyo.com/music/album/uml00602577826092/>

聞き所

1982年のデビューから30年以上を経た現在でも、クイーン・オブ・ポップとして、その名声をほしいままにするマドンナ。本作は彼女にとって14枚目のスタジオアルバム。まずは、第一印象を決める、高域から低域までのレンジ、音の透明感と粒立ちの良さ、音源に忠実な帯域バランスを求めたい、この4点はオーバーオールにも大きく影響する。特に聴感上のSN比が悪く音に透明感がないとその後の挽回が難しくなるので注意したい。また、ヴォーカル楽曲ということで音像表現も非常に重要となる。口元が大きくならないようにダッシュボードセンター付近に明瞭に定位させたい。上級者はバックコーラスとの空間的な描き分けも意識したい。バックミュージックを構成するエレクトリックシンセサイザーは、特に低域にパワーがあるので、立体感を出しながらリアルに聞かせると印象が良いだろう。

▼クラシック

ネマニャ・ラドウロヴィチ 「バイカ」Track 03 「ヴァイオリン協奏曲 第3楽章: Allegro vivace」

CD : <https://www.universal-music.co.jp/nemanja/products/479-7545/>

ハイレゾ : <https://www.e-onkyo.com/music/album/uml00028947975489/>

聞き所

ヴァイオリニストらしからぬワイルドな風貌が人気のネマニャ・ラドウロヴィチ。まずはソース音源に忠実な帯域バランスを求めたい。特に近年のメジャーコンテストにおいては、帯域バランスを正確に保つことが上位入賞の必須条件となっており、帯域バランスが悪いことでアコースティック楽器の質感表現が不足する車両は不利になる。また、聴感上の解像度を上げようと安易に高域を上げないように注意したい。あくまでも位相を合わせて解像度とサウンドステージを表現することが好ましい。サウンドステージについては、どちらか片側に偏ったり奥行きが歪んで表現されてはダメで、まず

はダッシュボードに対して平行に歪みなく構築したい。調整が進み位相が合ってくると1つ1つの楽器の位置関係が出てきて奥行きもグッと深くなる。本楽曲のような協奏曲で意識したいポイントとしては、ソリスト(今回はヴァイオリン)とオーケストラ2つの表現力、そして楽曲が盛り上がる部分で存在感が増すコントラバスやグランカッサなどの低域楽器が痩せて聞こえないように再生できると印象が良くなる。